

青森 なみおか  
浪岡城跡

1 所在地 青森県南津軽郡浪岡町

2 調査期間 北館と西館間の堀跡 一九八四年(昭59)四月～  
一九八五年一二月、北館北側の堀跡 一九八五年  
六月～七月

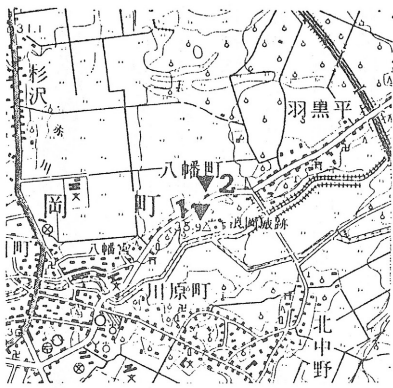
3 発掘機関 浪岡町教育委員会

4 調査担当者 工藤清泰・木村浩一

5 遺跡の種類 中世城館跡

6 遺跡の年代 一五世紀後半～一六世紀末

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

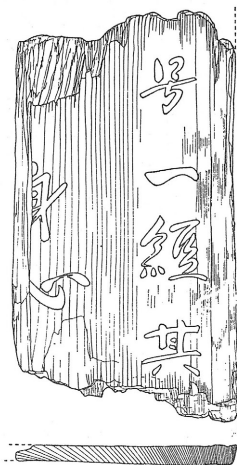


(青森西部)

浪岡城跡は、青森市と弘前市のほぼ中間、津軽平野の東側に位置し、浪岡町市街地より約1km東の低丘陵の末端を切り崩し、自然の河川と人工的な導水による堀により八つの郭に区画されている。堀は中土塁を持ち二重・三重の形態を見せ



(1)



(2)

ている。発掘調査は一九七八年（昭53）から継続されている。

(1)号木簡は、北館と西館の間の堀跡を調査した際、北館と命名されている郭の北西辺の堀から出土している。発掘箇所の上部平場には、榊形遺構がみられ、橋の架っていた可能性もあるが、遺物との関係は不明である。伴出遺物としては陶磁器類・木製品・骨類・石製品・鉄製品・銭貨・自然遺存体などがある。

一方、主要地方道青森浪岡線の改良工事に伴って行われた北館の北側にあたる堀部分二三七mの緊急調査では、シガラミ状遺構・二本の堀跡と性格不明な遺構二カ所が検出され、そのうち、性格不明遺構の一つから(2)号木簡が出土した。伴出遺物としては、青磁・染付・美濃等の陶磁器類、漆器・折敷・箸・曲物等の木製品等が出土している。

### 8 木簡の積文・内容

(1) 「梵字」

488×58×2.5 061

(2) ×号一経其×

×身心×

(320)×(170)×16 081

(1)は、光明真言全文が中左右中…と配されたもので、文字部分が浮き出た状態で残っている。形態と合わせると、柿経と考えられる。かなり大形のものである。

(2)の文字は墨が残っておらず、墨痕がわずかに盛り上がる形で残っていた。卒塔婆・板碑・盤・看板等の機能が考えられるが、破損品であり、内容も不明のため定かではない。

### 9 関係文献

浪岡町教育委員会『浪岡城跡Ⅷ』（一九八六年）

同『浪岡城跡―主要地方道青森浪岡線特殊改良一種工事に伴う発掘調査―』（一九八六年）

（木村浩一）